

穂高連峰の夜明け



北アルプス パノラマ銀座紀行

蝶ヶ岳・常念岳縦走登山

「雪積もる

北アルプスへ

いざ行かん」

北アルプスには、穂高連峰、館山連峰、後立山連峰、裏銀座、表銀座などの色々な名前が付いているのだが、この我々が縦走したコースは北アルプスの入門コースと名ぜられているのだが、私はしいてこの素晴らしいコースを「パノラマ銀座」と銘々したいと思う。それほどに素晴らしい景色が縦走中ずっと目に飛び込んできているのである。入門コースといえども決してラクに2600mまで登れるものでもない、それだけ急登が続いているのである。また季節はずれの寒冷前線の通過のために29日夜の気温はマイナス15度にも達して私のカセットテープと加藤氏のビデオカメラの電池が麻痺して動かなくなってしまった。

槍・穂高連峰に朝日が射さしかかり白い山肌がしだいに、黄金色に染まって行く光景は何事にも代えがたい神々しい気持ちになるであろう。こういう光景を真のあたりにしていると、大自然の中での我々人間はなんというちっぽけな存在であろうか、と思う。

蝶ヶ岳～常念岳登山計画書

メンバー 加藤一雄 (L) 51 才
大塚賢一 44 才
田中 彰 25 才

装 備 冬山装備一式
特記・・・アイゼン、ピッケル、防寒着、食器、地図、コンパス、高度計、サンダラス、ジョギングシューズ、酒、つまみ、手袋（薄・厚）他
ツウエルト（アキラ）コッヘル大（大塚）コンロ・ガス（加藤）

食 料 ラーメン2ヶ、ジフーズ2ヶ、パン、行動食

キャンプ道具 車の横でテント泊が出来るように車内にデポしておく。
シュラフ、ジフーズ、ラーメン1ヶ
テント大（大塚）、テントマット大（大塚）

行 程

4/29 (木)

加藤マンション (3:15) --- 須砂度 --- 三股 (11:00) --- 蝶ヶ岳ヒュッテ (泊) 16:00

4/30 (金)

蝶ヶ岳ヒュッテ (8:00) --- 蝶 (9:00) --- 常念岳 (13時～14時) --- 常念小屋 (泊) 15:00

5/1 (土)

常念小屋 (8:00) --- 一ノ沢 --- 一ノ沢小屋後 (12:00) --- ジョギングで三股 -- キャンプ --- 姫路

5/1 が悪天の場合は30日に下山！。

姫路出発日は2日以上的好天が予報されていることが条件！。



「登山道

季節はずれの

雪化粧」

10:00、1360m、気温 -2 度。中央道の豊科 IC で下車して車デポ地点の三股に到着。季節はずれの冷え込みと寒冷前線の通過で小雪が舞っていた。そのおかげでいきなり素晴らしい雪景色に遭遇である。ここから見渡す蝶ヶ岳方面はガスっていて見えないが、反対側の安曇野の町は太陽が顔を出している。天気は回復傾向である。早速準備に取りかかって登山開始である。

「風雪雨

頑張りきれず

肥となる」

11:30、1800m、ラーメンタイムである。まだ道の雪は少ないが周りの雪化粧は見事なものである。また巨木な杉が風雪雨に耐えきれずに無惨にも折れてしまっている、その数はすごいものである。

一人の先行者が足はけいれんを起こしたと言って引き返して来た。ここまでの時間は1時間半かかったと言っていたが、相当向こうまで行っていたのだろう。「この先からは雪がべったりと付いているので・・・」と言っていた。しかし、もうそこにヒュッテが見えていたのに・・・後々の事を考えての勇気ある下山であろう。



「ごく冷えて

パニクル電池

-15 度」

ここから先の夜までの行程は、最初に述べたようにカセットテープの電池がパニックになりだいたいの事しか解らない。

2000m 付近からアイゼン装備でアオモリトドマツの群生林の中をこちよく食い込ませならの登りである。2200m からはとんでもなく急登の連続で「あずき転がし」も真っ青である。気温も序々に下がりはじめでマイナス4度ちかくなっている。しかし、この急斜面をかすかであるがスキーのトレースが付いていたのには私とアキラは驚きを隠せなかった、「こんな急斜面の樹林帯を滑っているのか」加藤氏は平然としていたが・・・。

2300m 付近からは青空も顔を出し始めた、また右方向に素晴らしい常念岳と前常念岳が姿を現したので、一同にカメラやビデオを回す。

2667m の蝶ヶ岳ヒュッテに着いたのは17時ごろであった。予定よりも大幅に時間がかかっていた。この時点で気温はマイナス8度である。

4/30 晴れ

4:30 起床、蝶ヶ岳の朝を向かえる。外の気温マイナス14度。早速、厚着を決め込んでご来光を写しにかかる。昨日のガスも見事に晴れ渡り雲一つ無い。前に見渡すは私が初めての縦走登山の槍・穂高連峰がはっきりと見渡せる。その左には乗鞍岳、そして去年に山スキーで登った御岳、ぐるっと見渡して中央アルプス連峰、南アルプス連峰、そして巨大な富士山、八ヶ岳、本当に素晴らしい景色である。

5:00 安曇野の町の遠くの山の稜線よりの金色のご来光である。いつ見てもそうなのだが、太陽の昇る速度の早さには驚かせられる。そして、穂高連峰にプリズムシャワーをそそぎ込み真っ白い肌が金色に変わっていくのである。

「黄金の

穂高連峰

素晴らしい」

7:45 朝食を済ませでのんびりと出発である。登山に来てこんなにゆっくりとした気持ちは初めてである。今日の行程は常念岳までなので、あわてる事もない。しかし登山はこういったのんびリズムが本当の姿であろう。

8:20 3度。それにしてもピーカン日よりである。一同昨日の疲れなんぞ何処へやらである。

瞑想の丘をゆっくりと散策しながら歩き、蝶ヶ岳 2625m に到着である。

双眼鏡で覗けば槍ヶ岳の槍沢を、涸沢、北穂高沢を蟻より小さな行列が登っているの

がわかる。みんなそれぞれに思い思いの気持ちを持って登っているのであろう。しかし、加藤氏が滑ったという、槍沢から横尾尾根を過ぎ横尾本谷を滑り込んでいるスキーヤーはいない。(超上級者コースなので無理もないが・・・)

2664.3m、5度。蝶ヶ岳に到着。ほとんどの人がここまで来て引き返して横尾に下山している。我々の常念への稜線歩きは、氷ノ山山頂から氷ノ山越えの稜線歩きによく似ている。そして、今一度下り登り返すというところである。先行者のトレースはただ一人である。下りの途中でアイゼンを付けて軽快に下っていく。また、左手方面は、新芽をつけたアオモリトドマツの間から、いつも穂高連峰が見えていて歩くたびに角度が変わっていく様子はまさに「パノラマ銀座」である。

「贅沢な

稜線歩き

感無量」

10:50 2580m、3度。常念岳への登りでアオモリトドマツのティンバーラインで何と！、カモシカ

を発見！。今までには雷鳥は見てきたが、カモシカを見たのは初めてである。我々に気づいても何ら動じる気配もなく堂々たるものである。何を食べてあんなにデカくなるのか不思議である。

11:10 7度。正面に穂高連峰を眺めての昼食ラメントイムである。

ザイティングラード、クーロワール、スラブ、ルンゼと言った猛々しい穂高連峰特有の岩溝が見事な成り立ちをしている。

13:30 2857m、2度、常念岳山頂。昼食を済ませてコルまで降りて、山頂までの登り返しは非常に厳しく長くさすがにバテてしまった。

しかし、ひとたびこの山頂から見渡す360度の大自然の景色を見れば

今までの疲れも吹っ飛んでしまった。私がこれまでに登頂した山々がすべて見渡せるのである。

後立山連峰の白馬岳、立山連峰の剣岳、御嶽山、穂高連峰の大キレットの向こうに遠くは白山までも見渡せるではないか！。今日宿泊の常念小屋はこの山頂から350mも下った鞍部にあるので、時間もまだあるし今しばらくこの山頂に留まることにした。

すると、どこからともなくハングライダーが我々の上空でセンタリングして上昇中ではないか！。これにはホントに驚きである。ゆうに3500mは上昇しているだろう。今の風は無風に近く非常に穏やかで雪が太陽に熱せられてそこいら辺でサーマルが立ち上っているのが肉眼でも確認出来るほどである。

こんなに穏やかでこんなに素晴らしい景色が拝めるのなら、久々に私も飛びたくなくなってしまった。しかし、翼をたたんでから早3年は経ってしまっている。

「疲れ飛ぶ

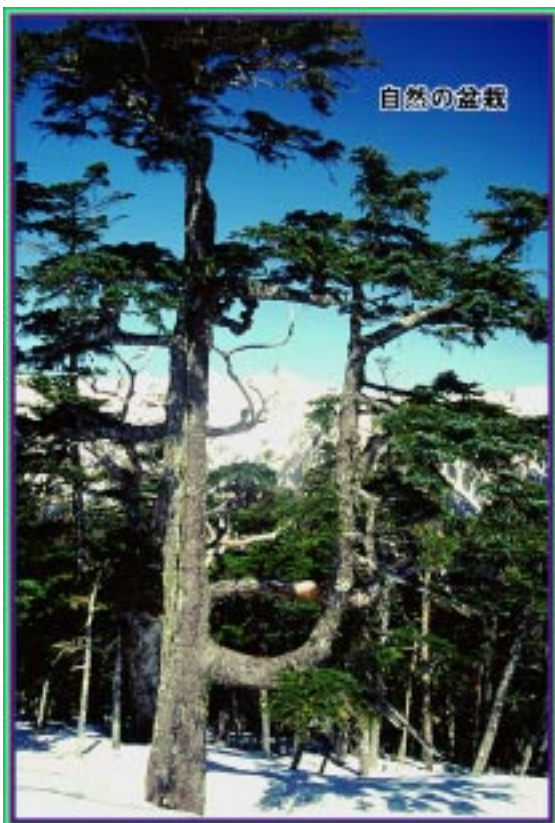
パノラマ展望

常念岳」

15:30 2466m、3度、常念小屋到着。この下りも雪が付いていて非常に急斜面である。

この小屋は北アルプスで最初に出来た小屋だと明記してあった、にも関わらず幾度も手入れをしてか、部屋、設備、テラス、食事などどれを取っても私がこれまでに泊まった小屋の中では最上級である。夜中にトイレに起きる時も、普通はヘッドランプが入るのにここはちゃんと非常灯が付いているのである。

夜は、同室になった茨城の「奥村夫妻」と色々話が盛り上がり勉強になることばかりであった。この夫婦は極寒の1月や2月でもザイルを持って行動していると聞いてアゼンとなってしまった。奥さんは怖い怖いと言って付いて行くと言っていた



が、どうもそれを楽しんでいるように聞こえてならなかった。この夫婦の歳は55才前後である。本当にひとたび山に入れば色々な人と巡り会えていつも驚かされる。

そして、最後にパソコンの話になり「メールアドレス」を持っているとなつてまたまた話が盛り上がりこれからメール友達としてつき合おうとなつた。去年は我らと行動を共にする轟氏と知り合ったし・・・大自然には通用しない文明の利器もこんな時は大したものです。



5/1 晴れ

4:40 起床、6度。今日は無風で暖かい。穂高連峰の大キレットに満月がぼっかりと浮かんでいるのがなんとも言えぬ光景である。

今日は前にそびえる常念岳を1時間ほど再び登り返し、常念乗越から前常念岳を経てこれまた急斜面の三股への下山ルートである。このルートでは当初の計画の一ノ沢へは降りないので、15kmの登り

のジョギングは省かれるので非常にラクである。

装備はピッケル・アイゼンである。

7:45 2750m、2度、常念乗越到着。残念なことにフィルム切れになってしまった、36枚×4本、24枚×1本をすべて使いきってしまった。もう一泊の予定ならオオボカである。やはり、私には36枚×8本は必要である。

前常念の稜線歩きは素晴らしい雪屁上で片側は常念沢へ、もう片側は二の沢へと続く素晴らしいカーブである、少々急斜面ではあるが滑る気持ちをそそる所である。常念でのキャンプ場でベーステントを張って、前常念を滑り込んだり、大天井へと登りったりとまだまだ色々な計画が立てられるものである、しかし、この度のような好天に恵まれるとは限らない。

10:00 アオモリトドマツの樹林限界。ここからはアイゼン装備で雪を踏みしめながら下って行く。しかし、加藤氏はアイゼンを付けずに上手にグリセードをしながら下っているのは素晴らしいバランス感覚である。本当に腰がめげているのか首を傾げてしまう。

11:00 1780m、あたりはもう夏景色である、今までの雪は何処へやら・・・でアイゼンはずしスパッツも外す夏のスタイルである。

12:00 1360m、三股分岐到着。なんと気温は23度。夏を思わす暑さである。沢でくつろぎアイゼン、スパッツなどの泥を落とす。

2日前のこの分岐は素晴らしい雪化粧であったのに、たった一日で似ても似つかぬ夏景色である。

「蝶ヶ岳

稜線歩き

常念岳

パノラマ街道

すべて乾杯」

5/2は、白浜トライアスロンシリーズ第2戦に出場しました。
はやり、山の疲れが出たのか最終ステージのバイクで落車をしてしまい、参りました。しかし私にとっては、昨日の最後はあくまで15kmのジョギングが頭に入っていたので、これでやっと私の登山は完了したと言えそうです。

5/3は、早朝4時からまたもや氷ノ山に繰り出しました。
天気もまだ太陽が顔を出してくれておりみんな（私・貴司・佐谷・木倉・中垣）ハイキング気分で楽しい登山となりました。
この氷ノ山にも千本杉あたりと北の壁付近には残雪がありみんな大喜びでした。

「氷ノ山

春を迎えて

花盛り」

